

<医療保育科> (認定課程: 幼二種免)

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	1年次前期の到達目標は、①本学の建学理念や社会的使命を理解すること、②高等学校までの学習を踏まえ、保育者として必要な基礎的な教養、特に日本語力を身につけること、③保育者になるための専門的な基礎知識を習得すること、の3点である。この目標を達成するために、①については全学の1年生が履修する本学独自の教養科目「医療保健福祉概論」を導入している。②については、教養科目「日本語」を導入している。③については幼児教育・保育の総論となる専門科目を設置している。
	後期	1年次後半の到達目標は前期に引き続き、①保育者として必要な基礎的な教養、特に日本語力を身につけること、②保育者になるための専門的な基礎知識を習得すること、に加え、③2年次前期に行われる保育実習Ⅰ(保育所・施設実習)に向けた準備を進める、の3点である。この目標を達成するために、①については教養科目「文章表現」を導入している。②については、理論系科目に加え保育内容5領域に関する演習系科目を設置している。③については、保育実践に直結した科目を履修するとともに、保育所の園長経験者や児童福祉施設の施設長経験者による特別講演を行っている。
2年次	前期	2年次前半の到達目標は、①2年次の学習のコアとなる保育実習(保育所・施設)を乗り越えること、②保育実習と関連付けながら保育者としての専門的な知識・技能を身につけること、③本科の独自の目標である「医療の専門性をもつ保育者」となるための基本的な考え方を理解すること、の3点である。この目標を達成するために、①に関しては、6月に10日間の保育所実習、9月に10日間の施設実習を実施し、各実習の事前・事後指導を徹底的に行う。②に関しては、実習と関わりの深い領域の学習を展開する。③については、学科専任教員のチーム・ティーチングによる「医療保育総論」を導入し、本科がめざす医療の専門性をもつ保育者の理解に関する講義を行っている。
	後期	2年次後半の到達目標は前期に引き続き、①2年次の学習のコアとなる保育実習を乗り越えること、②「医療の専門性をもつ保育者」の各論となる「病児」「発達障害児」に関する基礎知識を習得すること、に加え、③キャリア教育を導入し、進路選択に関わる情報収集を開始すること、の3点である。この目標を達成するために①については、12月に10日間の保育実習(保育所・施設の選択実習)を実施するとともに、実習後に3コマに及ぶ「保育実習成果発表会」を行う。②については、医療保育総論の対する各論として「病児保育論」、「発達障害児保育論」といった科目を設置する。③については、HRの時間を利用して進路支援ガイダンス(連続5回)を実施し、進路についての特別講義を行う。
3年次	前期	3年次前半の到達目標は、①1・2年次の幼児教育・保育に関する学習の総まとめとして教育実習を乗り越えること、②1・2年次の表現系科目の総まとめを行うこと、③選択コースを履修し「医療の専門性をもつ保育者」となるための学習を深めること、の3点である。この目標を達成するために①5月末から6月にかけて教育実習(幼稚園)を実施する。また、教育実習指導には本科の専任教員に加え、地元の公立幼稚園の園長経験者も指導にあたる。②については、総合表現(オペレッタ)の授業を実施する。③については、「病児保育コース」、「発達障害児保育コース」の2つの学習コースを準備する。
	後期	3年次後半の到達目標は、①選択コースにおいて特設実習を行い「医療の専門性をもつ保育者」に関する学習の総まとめを行う、②各学生が選択した課題に関する卒業研究をまとめる、2点である。①については、病児保育コースを選択した学生は、連続10日間となる「小児病棟保育実習」を医療機関において行い、病児保育に関する学習の総まとめとする。発達障害児保育コースを選択した学生は、毎週1回午前中に障害児保育拠点保育所、障害児通園施設、特別支援学校(知的障害児低学年クラス)のいずれかで約2か月間、実習を行う。②については、ゼミナール形式で行う「医療保育研究」において、卒業研究をまとめ3年間の学習の総まとめを行う。